

## 報告事項 1

### 2022 年度事業計画

#### 概要

コロナウイルス感染症の影響が続き、2年にわたり観光業は大きな打撃を受けています。収束時期を見通すことは難しい状況ではありますが、インバウンドを含め島の観光が勢いを回復した際に様々な形で誘客を行えるように準備をしまっています。

#### 1. 観光客誘客事業

寒霞溪、映画村、オリーブ公園、醬の郷、エンジェルロードといった主要観光地に加え、豊かな自然を活かした新しい魅力的なスポットを発掘し、HP、SNS など様々な形で PR に努めていきます。この新たなコンテンツ造成については観光庁等への公募・補助金に対して積極的に応募し、発掘と磨き上げを図ります。

また、本年度は第 5 回瀬戸内国際芸術祭が開催されます。インバウンドの回復はまだ時間がかかると思われますが、瀬戸芸をきっかけとした小豆島全体の PR に務めます。

#### 2. 地域限定旅行業

昨年 8 月に予定通り地域限定旅行業の登録を行いました。しかし、コロナ禍が続いたため昨年度は主催ツアー開催無しという結果となりました。今年度は旅行業の再スタートを切る年といたします。既存の観光地を巡るツアーに加え、アドベンチャーツーリズム※を旗印にトレッキングツアー、山岳霊場ツアー、醤油蔵巡りツアー、日本遺産「石の島」ツアーなどこれまでにない新しい切り口のツアーを造成し、誘客に務めます。

「持続可能な観光」が叫ばれるなか、自然を活かすエコツーリズムは強い関心を持たれています。エコツーリズム推進協議会についてはまずは勉強会からスタートいたします。「小豆島のツアーは SDGs を重視して環境に負荷をかけない形で実施する」ことを PR します。

※アドベンチャーツーリズムとは「アクティビティ、自然、文化体験の 3 要素のうち、2 つ以上で構成される旅行」をいいます。

#### 3. フィルム・コミッション事業

このフィルム・コミッション事業は長期的に小豆島の魅力を多くの人に伝えていくために重要な事業として位置付けています。小豆島の豊かな自然とエキストラ募集を始めとした島内の撮影適地について映像アーカイブを作成し、またお弁当・宿泊・交通など具体的な提供内容をまとめ、専用 HP を作成することによって積極的なロケ誘致活動を進めていきます。

#### 4. 調査事業

小豆島に来ていただいた観光客の皆様に対し「小豆島観光のどこがよくてどこが悪かったのか」を調べる満足度調査を実施いたします。観光の現状を正しく把握することにより、今後の観光と誘客について方向性を見出し、2025万博、さらにその先を見据えた観光長期計画の立案を検討していきます。

#### 5. 修学旅行・研修旅行受入サポート

団体旅行のなかで手堅く集客が見込める修学旅行は、これからますます重要になってきています。この修学旅行は現在ますますSDGsとの関連が強くなってきており、いかにして島内でSDGsの体験ができるかが誘致の鍵となります。島内での様々な体験をまとめたパンフレット(PDF)を今後も改訂・拡充していきます。さらに小豆島に修学旅行が決まった際にはオンラインで小豆島の課題について事前のレクチャーを行うなど、修学旅行全般について引き続きサポートを行っていきます。

#### 6. 勉強会・セミナーの実施

前年度はコロナ禍もあって開催できませんでしたが、今年度はSNSや動画を使った新たなPR手法について、さらにオンラインツアーなど新しい旅のスタイルについての勉強会・セミナーを主に会員向けに実施します。

#### 7. インバウンド環境整備

英語ガイドについてはコロナ禍の影響もあり昨年度は研修を開催できませんでした。今年度前半に開催のうえ、後半からのインバウンド復活に備えます。おもてなし英会話についても引き続き開催いたします。

#### 8. DMO登録の検討

DMO(観光地域づくり法人)への登録について検討を始めます。持続可能な観光がますます重視されるなか、DMOとなることにより観光業だけでなく地方自治体などさまざまなステークホルダーと密接な連携を図りつつ観光振興を進めていくことができるようになります。また、認定DMOのみに認められる、観光庁からの手厚いサポートが受けられるようになります。

#### 9. 広域連携事業との推進

香川県観光協会、四国ツーリズム創造機構、せとうちDMOなど島外の団体と情報交換を密にし、観光需要復活の際に連携して小豆島への誘客を推進していきます。